

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年10月07日

Grocery Sharing App Recelery Cuts Food Water グロサリーをシェアするアプリ Recelery が食品の廃棄を削減する

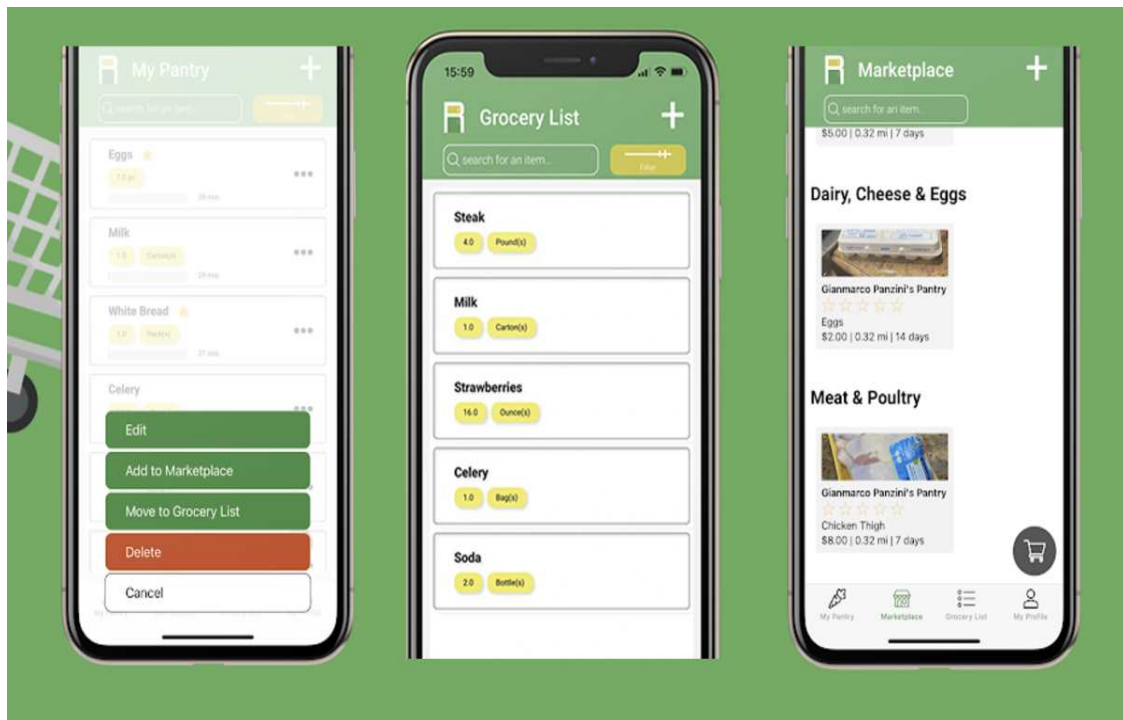
米国では未曾有のインフレの影響で食品価格高騰が未だに続いておりますが、消費者は必要以上に食品を購入しています。

そして食品を消費し忘れてしまった場合、賞味期限切れとなり、統計で年間13億トンの食品が廃棄され、その損失額は約1兆ドル(約145兆円)に上ると推定されています。

最近、食品廃棄の低減も目的とし、個人宅で買い置きした食品の追跡とオンラインマーケットプレイスを繋ぐアプリ “Recelery” が開発されました。

ユーザーは、買い置きした食品の賞味期限を入力し、その情報を必要としているユーザーとシェアし、自身の地域に住んでいる他ユーザーの『バーチャル食品貯蔵庫』を閲覧します。

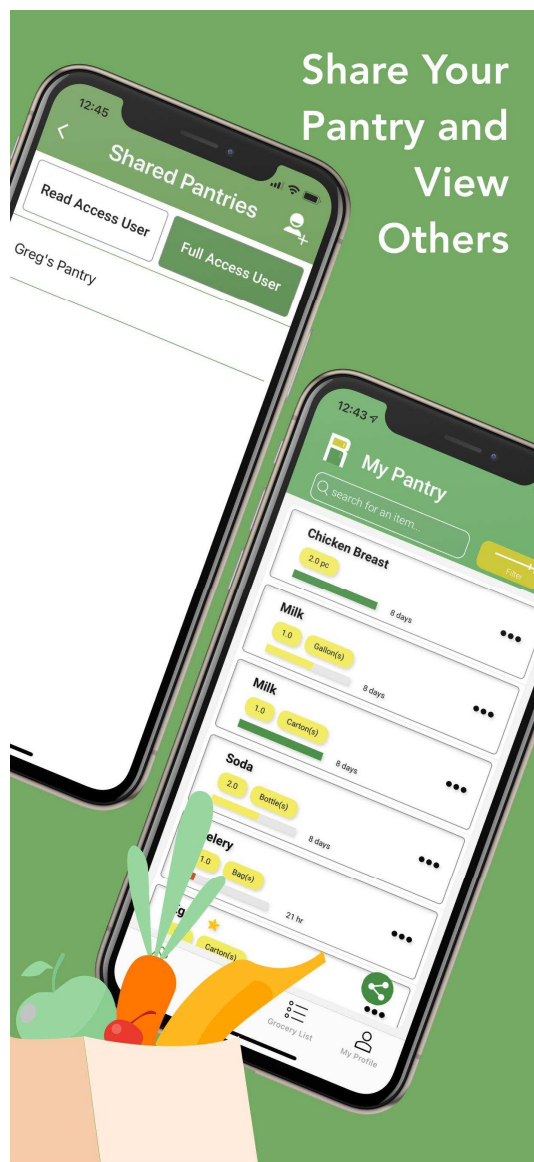
ショッピングに出かける前、ご近所さんが廃棄寸前にしている食品を知ることが出来れば、無駄な購入も低減します。



また、Recelery のマーケットプレイスというツールでは、廃棄されてしまうかもしれない余剰食品を販売し、収入を得ることもできます。

自分自身がいる 1 マイル（約 1.6 キロ）以内にいるユーザーの販売希望者なら誰でもグロサリーの不用品をアプリに商品をアップロードし、食品の賞味期限や購入した場所や引き取り場所や販売価格を記入し、売買が可能です。

Recelery は 2022 年 10 月初旬にアプリをリニューアルしました。マーケットプレイスの機能はアップデートされ、ユーザーが投稿できる写真の上限を最大 25 枚まで拡大し、アイテムが追加された具体的な日付を示す新しいマーカーを追加しました。



リニューアル以前は、出品者は食品の写真を1枚しかアップロードできず、購入者は、各商品がいつ出品されたのかを知ることができませんでした。現在、販売希望者は沢山の画像を投稿することが可能となり、購入希望者はその食品がいつから販売されているのかを確認することができるようになりました。

また販売が完了した商品はマーケットプレイスから削除されるようになりました。

現在、その取引において運営側は手数料を収受していないので、販売希望者は100%の売上を得ることができます。

そして当然の事ですが、ユーザーは、手作りの食品や開封済みの商品、腐った食品や賞味期限切れの食品、生鮮食品、ベビーフード、粉ミルクなどの販売も禁止されています。

Recelery は基本無料のアプリで App Store や Google Play Store からダウンロードできます。

またオプションとして月額 2.99 ドルまたは年額 16.99 ドルのサブスクリプションも用意されています。

サブスクリプションを利用するとユーザーは自分の食料品リストに 60 以上のアイテム、マーケットプレイスに 25 以上のアイテムを追加可能で、他のコミュニティメンバーが作ったパントリーにも無制限にアクセスできるようになります。

2021 年 6 月に立ち上げた Recelery は、5 年前法学部生だったダニエル・エイブラムス氏が初めて一人暮らしをする時に思いつき全額自己資金で立ち上げました。

「その当時、僕は沢山の野菜が捨てられていることに気付き、近所の人々がどのような食品を余らせているかを調べ、転売できるアプリがないかを調べてみましたが、そのニーズを正確に満たすアプリを見つけることができなかったので自分でアプリを作ることにしたのです。」とハイテクやスタートアップ専門のオンラインニュース TechCrunch にて語りました。

また、エイブラムス氏は、オンラインで知り合ったばかりの人々から購入する際、『合理的な判断』を薦めており「取引を完了する前に必ず写真を相手に要求し、テキストメッセージでも販売者と連絡を取るように。」付け加えました。

現在 Recelery には平均、毎月 1,000 人以上のユーザーがいるそうです。



Receleryに関するニュースは食品の廃棄削減に期待できる取り組みであると食品小売業専門のニュースでも取り上げられていました。

以前、私のレポート#104で紹介した地元のグロサリーや外食で余った食品を賞味期限切れ寸前に希望者へ低価格で販売するアプリ ToGoodTogo や2019年にカナダで起業し、2020年から東海岸のスーパーマーケットからスタートした消費期限が近いグロサリーを半額以下で販売する Flashfoods と同類のアプリですが、違いは個人同士の取引であることです。

eBay と似た方法でマーケットプレイスというプラットフォームを活用し、譲りたい人と欲しい人を結んで食の廃棄に取り組む新しい方法です。

私の希望としては Recelery と Flashfoods がコラボレーションし、そこにレシピ提案もあれば良いなと思います。

直ぐに消費したいグロサリーにマッチングした美味しくて簡単なレシピを作れる素材もグロサリー店で同時に購入出来れば、更に利用頻度の幅が広がり、安価で無駄の無いメニューが完成するのでは？ と想像を膨らませております。

とりあえず、私も早速 Recelery をダウンロードして余っているアイテムは入力してみました。

ですが残念なことに昨年、東海岸ペンシルバニア州フィラデルフィア市からスタートしたばかりなので、まだ私のすぐ近くでこのアプリを利用している人は居ないようでした。

でもきっと近い将来に西海岸へも拡大してくると思いますので、その際には本格的な利用のアップデート情報をレポート致します。



来週はリアルの米国流通ツアーにアテンドするので、お休みとさせていただきます。

